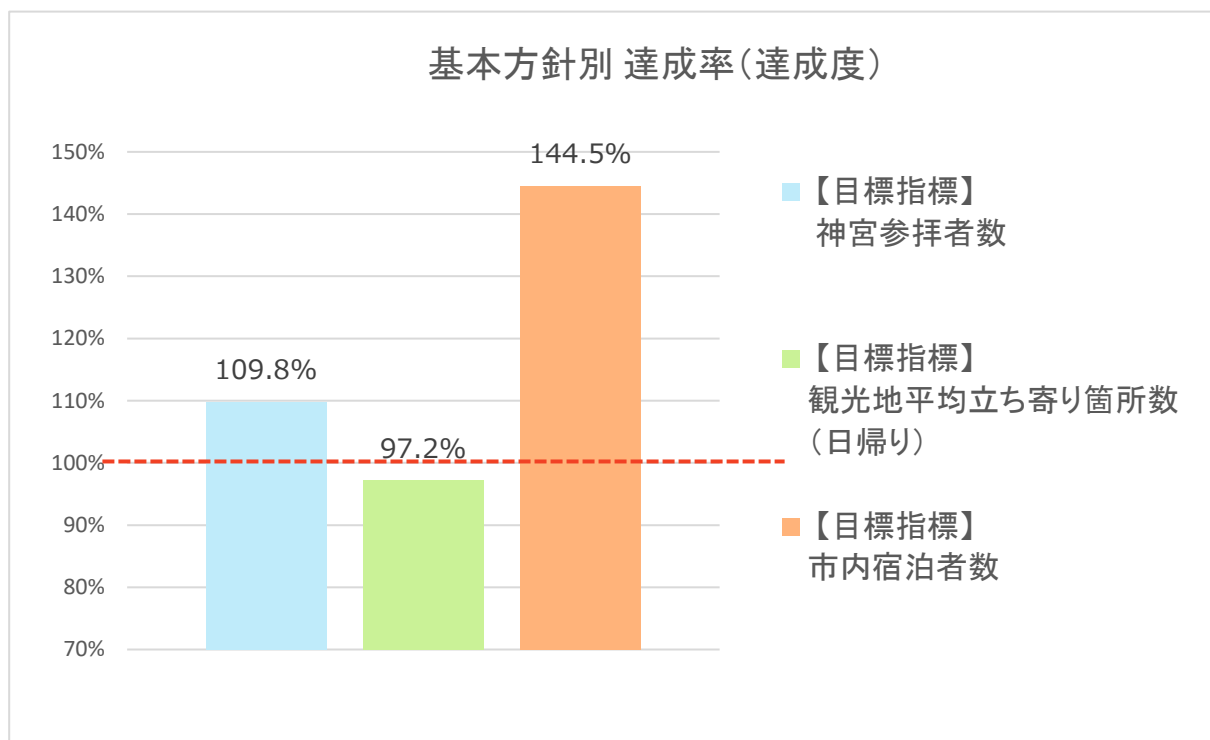


伊勢市観光振興基本計画 令和4年度検証結果

●目標指標（KGI）に基づく検証

〈全体〉

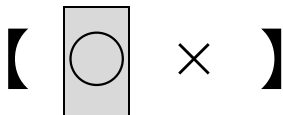


指標ごとの達成率を見ると、「神宮参拝者数」、「市内宿泊者数」の2指標は目標を達成したが、「観光地平均立ち寄り箇所数」は目標未達となった。

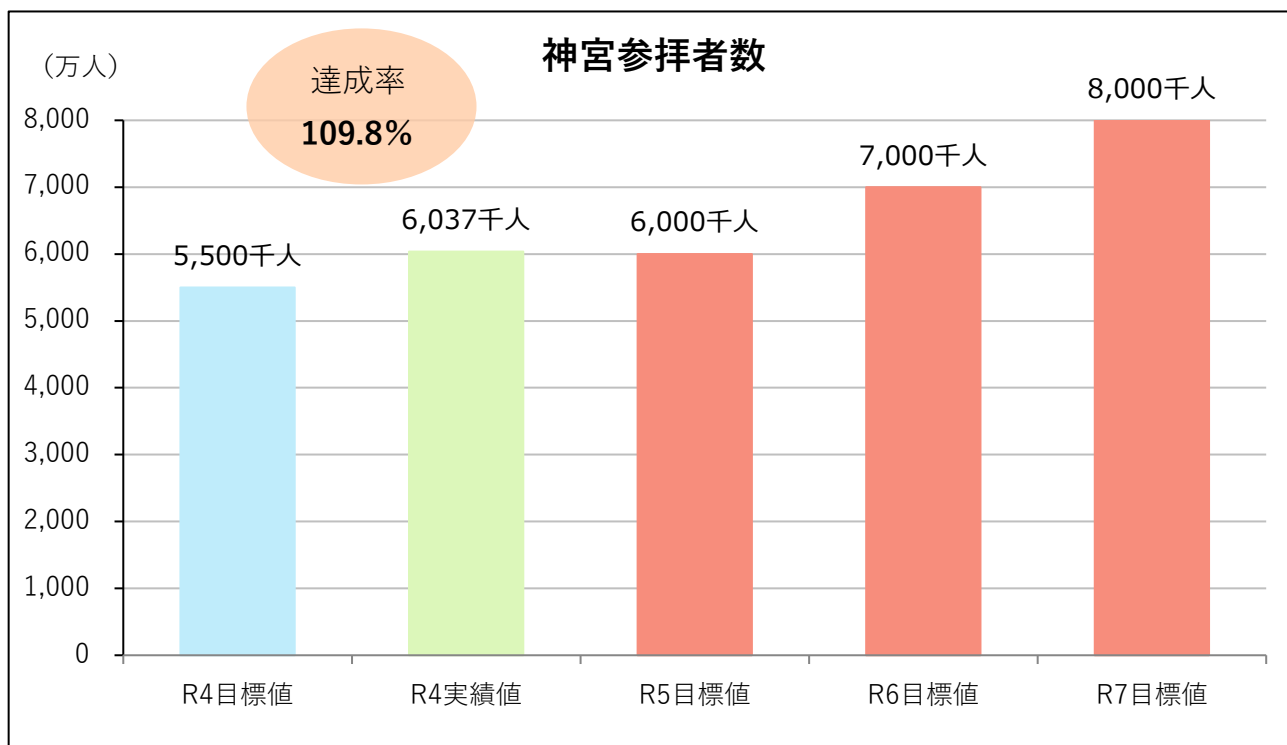
令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けながらも感染防止対策を徹底した上で観光を楽しみたいという需要を感じることができた一年となった。特に「10月から12月」は、1年間で最も回復基調が続いた時期であった。10月11日から全国旅行支援が始まったことや、旅行支援に先駆けて9月1日から伊勢志摩地域広域での「伊勢志摩ジャンボキャンペーン」を実施したこともあり、コロナ禍前を彷彿とさせる賑わいとなったことが神宮参拝者数、市内宿泊者が目標達成した要因であると推測される。

しかしながら、周遊や分散の指標である観光地平均立ち寄り箇所数の減少（日帰り）は目標未達となった。今後も観光客の満足度を高めていくためにも、目的地以外への周遊を促進していくことが求められる。

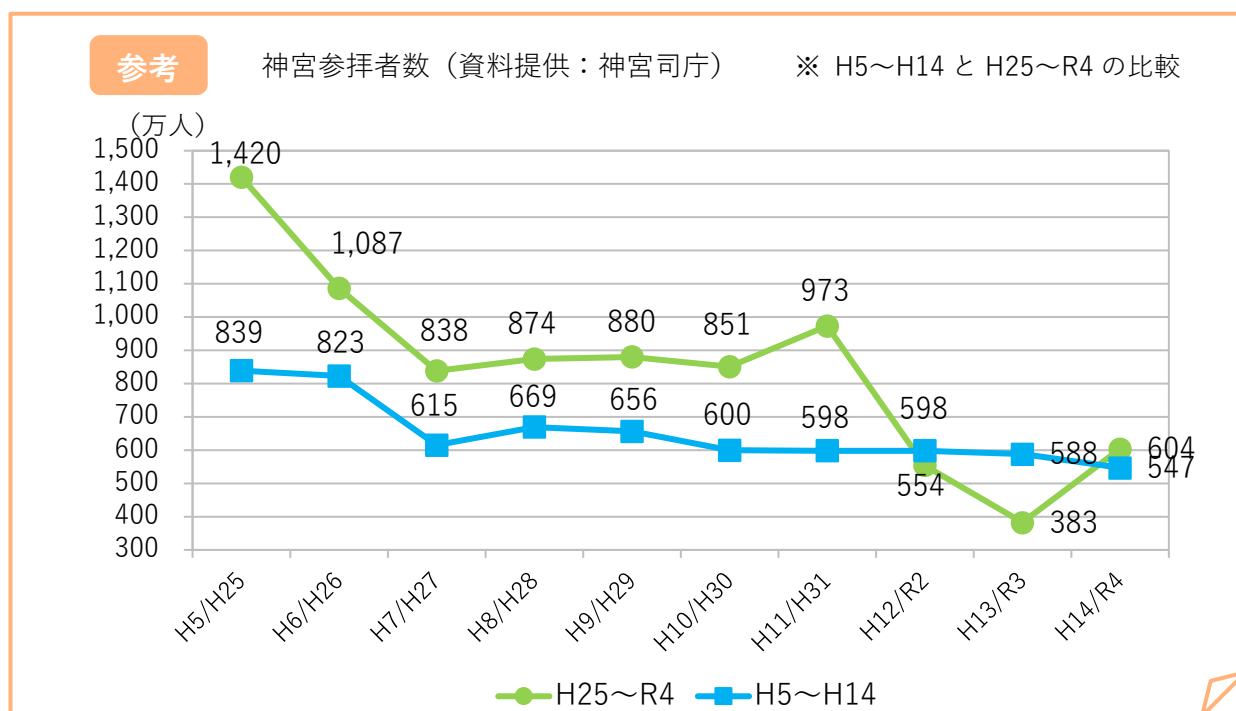
〈1. 神宮参拝者数〉



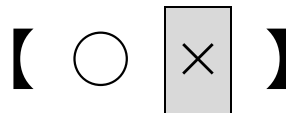
・令和4年の神宮参拝者数は604万人で目標値550万人に対して達成率は109.8%、前年値383万人に対しては57.7%増となった。



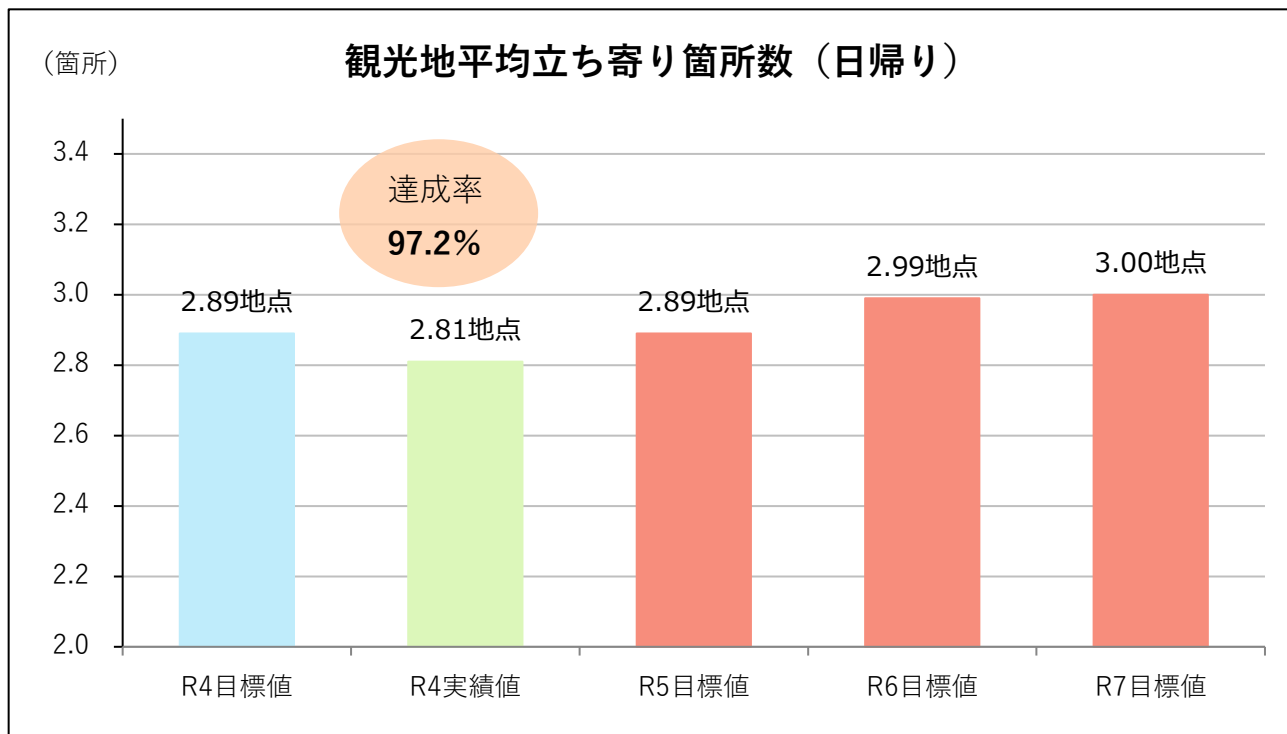
【検証】令和4年は3月6日にまん延防止等重点措置が解除されて以降、全国的な行動制限がなかった年であった。7月から9月にかけて新型コロナウイルスのオミクロン株による感染が拡大していた時期であっても、全国的な行動制限は発出されず感染防止対策を徹底させた上で、日常を送る状況が続いておりました。観光客数はコロナ禍前の状況までは戻っていないものの、全国旅行支援が開始となった10月以降は増えている。



〈2. 観光地平均立ち寄り箇所数（日帰り）〉



・令和4年の観光地平均立ち寄り箇所数（日帰り）は2.81地点で目標値2.89地点に対して達成率は97.2%、前年値2.85地点に対して1.4%減となった。



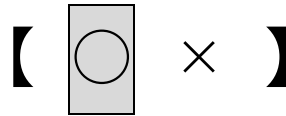
【検証】令和4年の観光地平均立ち寄り箇所数（日帰り）の2.81地点はコロナ禍前である平成30年の実績値と同じ値であるものの、コロナ禍であった令和3年の2.85地点を下回っている。しかしながら日帰りの観光消費額は令和3年より1,010円増加しており、一か所あたりの観光消費額は増加していると推測される。

参考

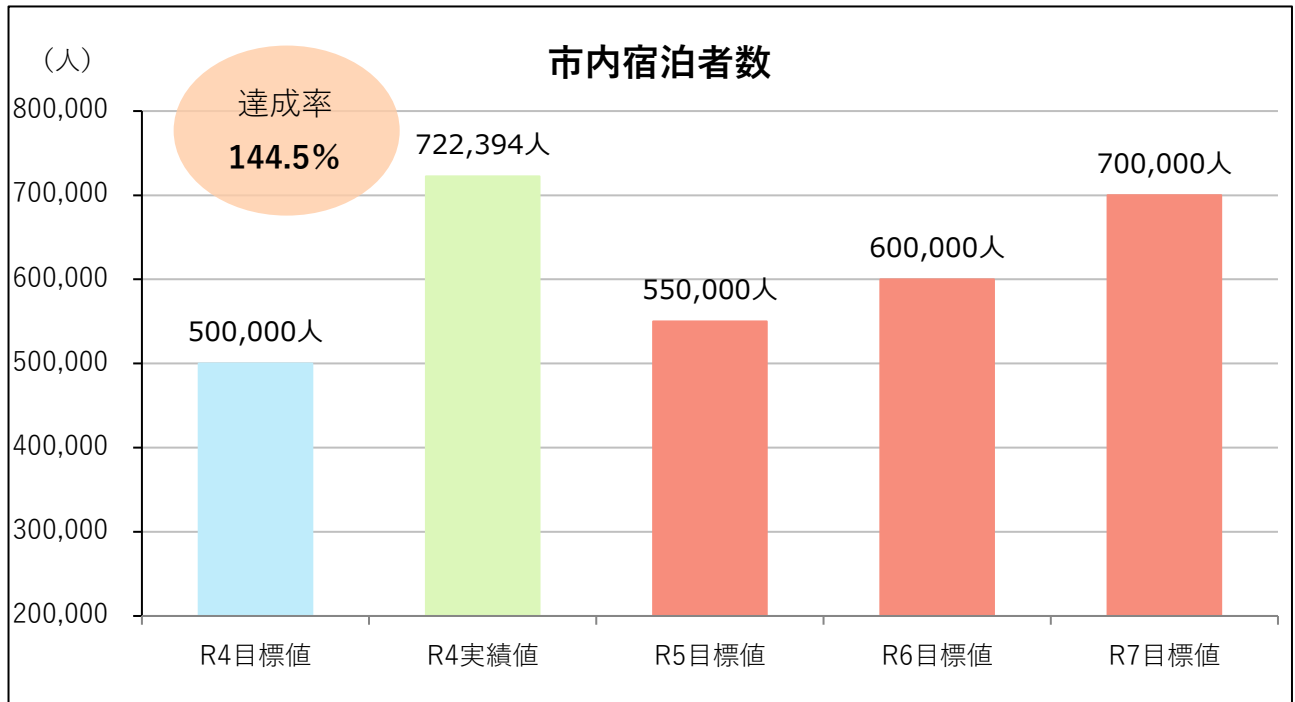
立ち寄った観光地〔上位10位〕（出典：伊勢市観光客実態調査）

項目	構成比(%)			R1差 (ポイント)	R3差 (ポイント)
	R1	R3	R4		
1 おかげ横丁・おはらい町	78.1	83.8	84.7	6.6	0.9
2 内宮(伊勢神宮)	79.1	76.3	75.9	▲3.2	▲0.4
3 外宮(伊勢神宮)	43.3	54.4	58.5	15.2	4.1
4 二見興玉神社/夫婦岩	36.2	31.1	32.5	▲3.7	1.4
5 外宮参道	41.3	31.0	24.3	▲17.0	▲6.7
6 猿田彦神社	9.1	12.5	11.2	2.1	▲1.3
7 伊勢河崎商人館	3.0	3.9	3.2	0.2	▲0.7
8 月夜見宮	3.7	1.4	2.3	▲1.4	0.9
9 月読宮	3.3	2.6	2.3	▲1.0	▲0.3
10 伊勢シーパラダイス	2.8	1.8	2.2	▲0.6	0.4

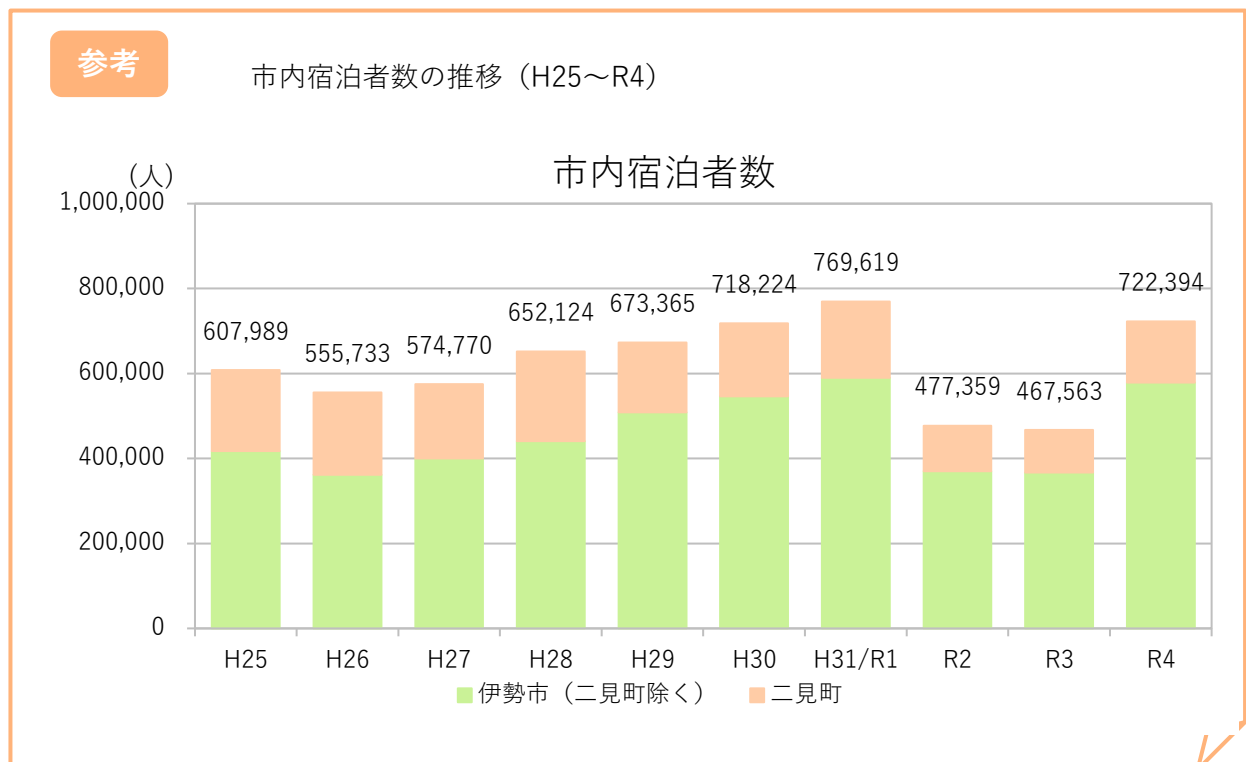
〈3. 市内宿泊者数〉



・令和4年の市内宿泊者数は722,394人で目標値500,000人に対して達成率144.5%、前年値467,563人に対して54.5%増となった。

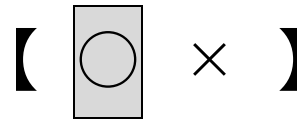


【検証】 目標値及び前年値を大きく上回る結果となりコロナ禍前の平成30年と同程度の実績となった。この要因としては国や県による旅行支援や9月1日から伊勢志摩地域広域での「伊勢志摩ジャンボキャンペーン」による効果が大きいものと推測される。市内宿泊者数の増加は市内消費の拡大を図り、観光による地域経済への波及効果を一層高めていく効果が高く、今後も増加傾向を目指すことが重要となる。

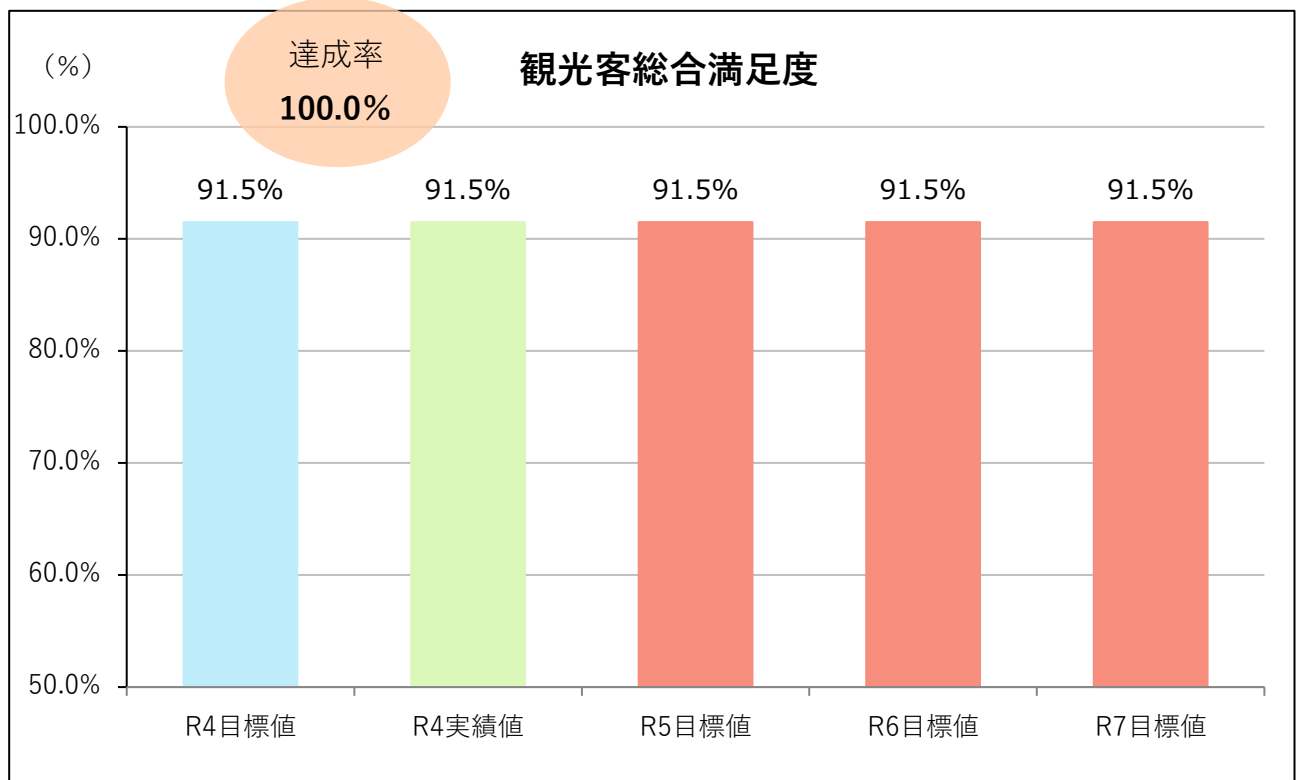


●基本方針に基づく取組みと検証

基本方針1 「神宮を中心とした物語性」の発掘・展開

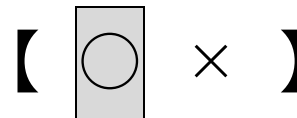


神宮を中心とし、伊勢市全体に広がる観光資源や精神性の魅力を再度地域の人々、そして伊勢市を愛する市外の人々も巻き込んで掘り起こし・磨き上げPRすることで、新たな交流を生み出します。

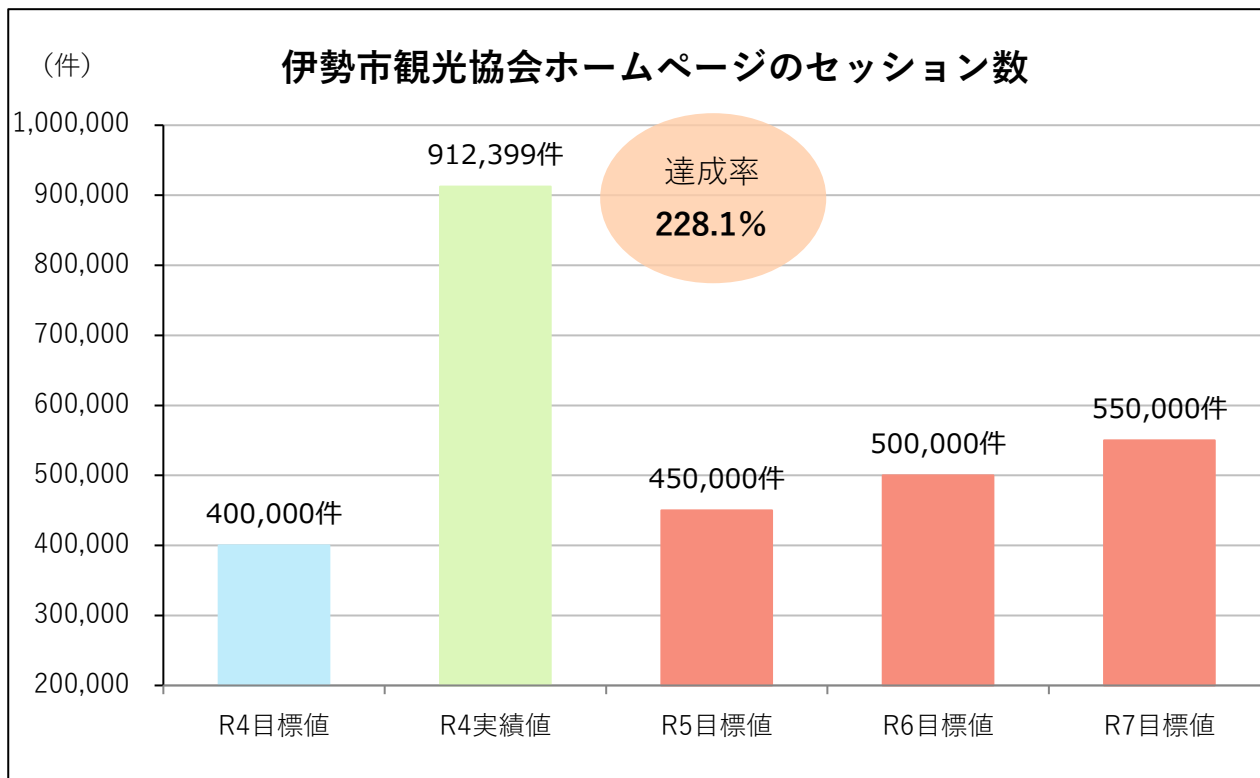


○目標に対して達成率 100.0%となり、高い水準を維持している。

○観光客総合満足度はコロナ禍の令和2年に 91.1%、令和3年に過去最高の 91.5%となり、令和4年もこの数値を継続できている。数値がコロナ禍に上がった要因としては分散観光により、観光客が心地よく滞在できる受入環境となったことが要因の1つであると推測されるが賑わいが戻ってきている際の調査であった4期の実態調査（令和4年12月3日、4日に実施）においても満足度は 91.1%と高い状態を維持できている。今後もこの高い水準を維持していくことが重要となる。

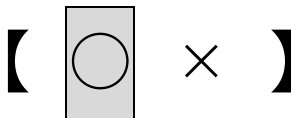


情報発信や来訪をきっかけに、伊勢市の持つ歴史文化や物語性の魅力に共感していただき、もっと伊勢に関わりたいという人を増やし、単なる観光を越え、更に強くこの伊勢の地域とつながりを持つ「関係人口」の創出が आवश्यकとなっております。

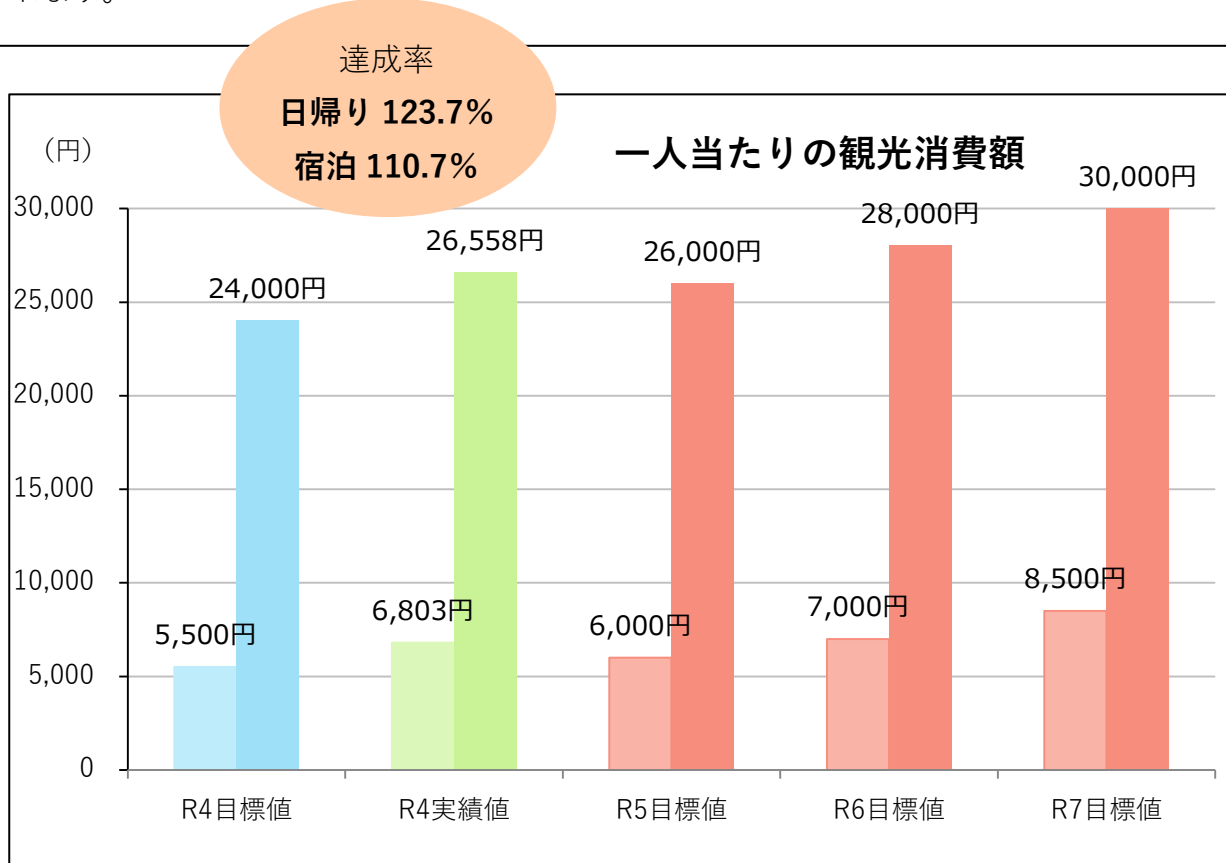


- 目標に対して達成率 228.1%となり、大きく目標を上回る実績となった。
- 令和3年3月末にスマートフォンユーザー視点を重視したリニューアルを行った。
- コロナ禍における緊急事態終了後は特にセッション数の増加傾向がみられ、令和4年は特に全国的な移動制限等の要請もなく推移したため年間のセッション数が90万を超える高水準となった。

基本方針 3 産業視点での観光の推進



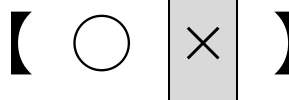
観光とは、人生の楽しみであると同時に、観光地に住む人々の暮らしを豊かにする重要な要因の一つです。地域の人々を豊かにするには、産業としての視点をもって、消費を生み出し、地域に継続して効果を波及させることが重要です。そのために、マーケティング調査や、調査に基づく戦略の構築・実行、消費を促進するための観光資源へのストーリー性が求められます。



○目標に対して日帰りは達成率 123.7%、宿泊は達成率 110.7%となり日帰り、宿泊共に目標達成となった。

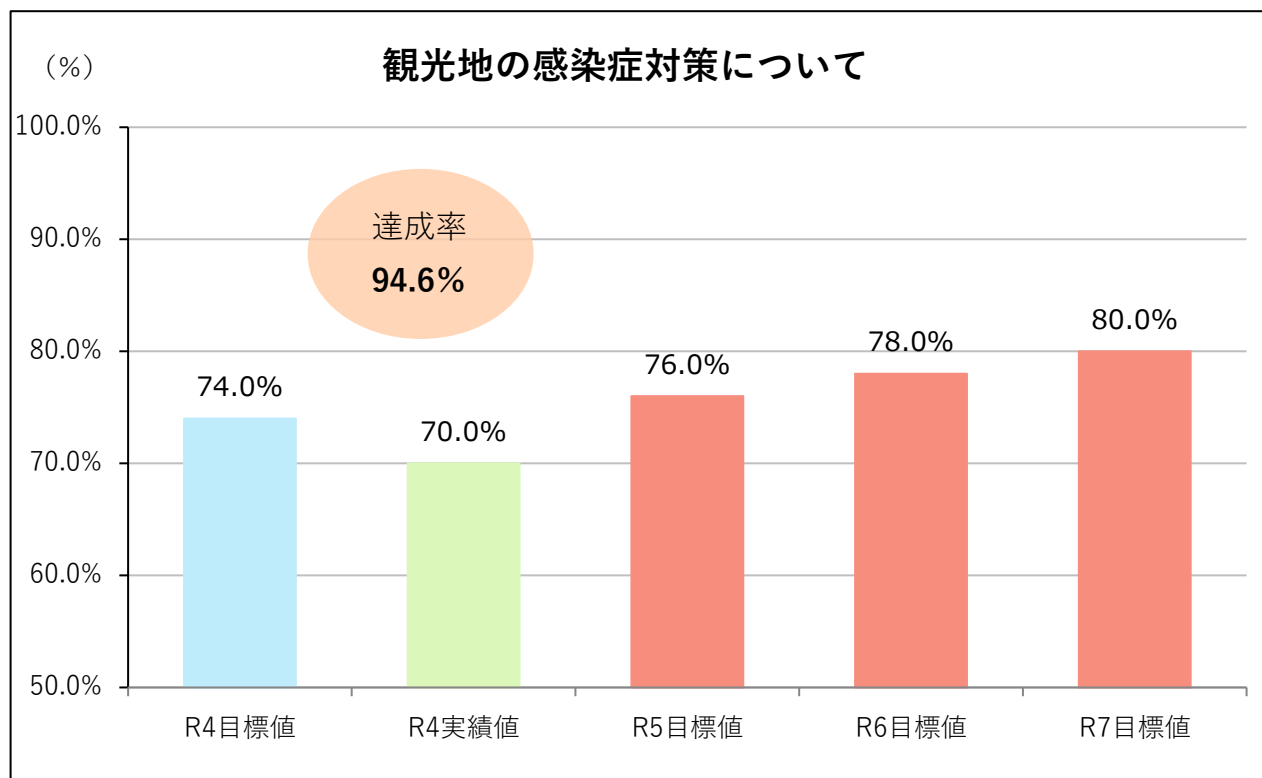
○特に 4 期の実態調査(令和 4 年 1 2 月 3 日、4 日に実施)では日帰りで 7,341 円、宿泊 28,123 円となり、宿泊はコロナ禍前の平成 3 1 年を上回る結果となった。これは伊勢志摩ジャンボキャンペーンや全国旅行支援などによる効果も大きいと推測される。

基本方針4 安全・安心な受入環境・受入基盤の整備



伊勢市には神宮をはじめとした多種多様な資源があり、特に歴史文化を感じる観光におけるポテンシャルには特筆すべきものがありますが、一方で、観光ニーズは多様性を極め、日々、求められる条件は変わりつつあります。近年においては、新型コロナウイルス感染症や自然災害などへの備えや、多様性に対応した受入環境なども求められています。

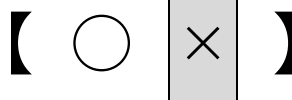
これらのニーズへの対応のためには、最新のデジタル技術の活用や、多様な主体による受入環境の構築に取り組み、伊勢のまちを形作る歴史文化とのバランスを取りつつ、訪れる人も住む人も双方が満足できる受入基盤の構築が必要です。



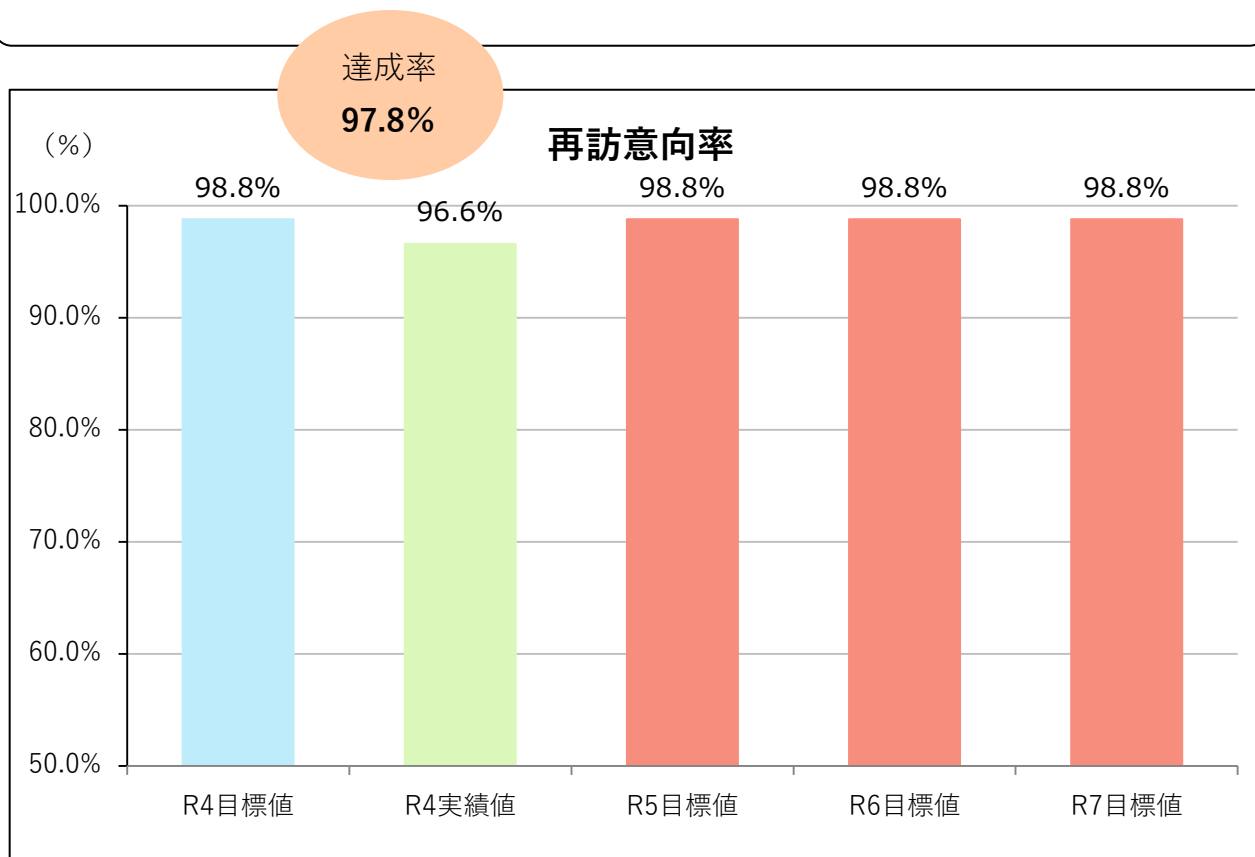
○目標に対して達成率 94.6%と目標未達となった。

○市民アンケートは令和4年9月7日から30日にかけて実施したもので、令和4年7月ごろから9月半ばにかけては新型コロナウイルスのオミクロン株によって、感染が拡大していた状況であったことも目標を下回った要因であると推測される。なお、今後新型コロナウイルスが5類に分類されることから、本目標指標については見直しの必要がある。

基本方針5 「共生と競争」の視点での連携の推進



このコロナ禍による観光客の減少を伊勢市の観光を見つめ直す機会と捉え、ウィズコロナ・アフターコロナにおいても、周辺地域との「共生」だけでなく、時にはライバルとして「競争」し、互いが切磋琢磨することによって、双方の持つ地域資源やコンテンツの魅力を高め、更なる発展を目指します。

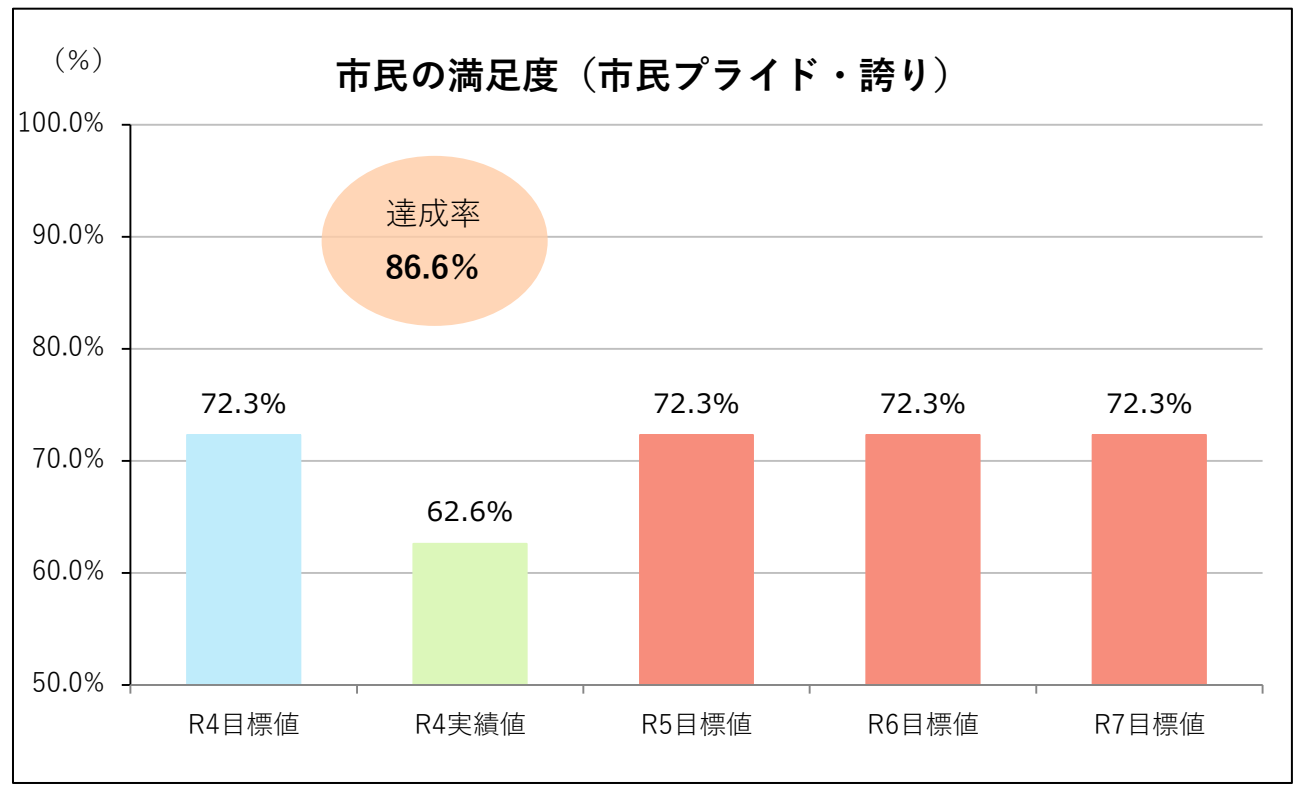


○目標に対して達成率 97.8%と目標未達となった。

○再訪意向率は令和3年に98.8%と観光客総合満足度と同じく過去最高となった。令和4年実績の96.6%は令和元年と同じ値であり、高い水準ではあるものの昨年より下がり、目標未達となった。伊勢市及び周辺地域が観光客に繰り返し選ばれる観光地となること、そしてその中心が伊勢となることを目指していく必要がある。

基本方針6 市民・地域の「おかげさまの心」の醸成と連携の強化 【 ○ × 】

市民がこれまで多くの観光客を迎え入れ、繁栄してきた伊勢市の観光文化について学ぶ機会を設けることで、「おかげさまの心」をもって観光客を迎え入れることへの誇りを醸成することが大切です。そのうえで、地域が一体となって観光客を迎え入れる観光地として発展し続けることを目指します。



- 目標に対して達成率 86.6%と目標未達となった。
- 「とても誇れる」と「やや誇れる」の合計が 62.6%となるのは、平成 28 年の市民アンケートと同程度であった。また令和 4 年度の市民アンケート結果によると 20 代以下はとても誇れるの割合が多く、10 代はとても誇れる、やや誇れるの合計が 77%と最も高い結果であったが、令和 3 年度の市民アンケートと結果と比較すると全ての年代で「とても誇れる」と「やや誇れる」の合計が減少している。